

2019年7月28日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「夢を見る」

聖書：創世記41：1～36

今朝は「夢を解き明かす」ヨセフの物語から。ヨセフの夢は、過去のことではなく将来を予知する夢で特殊である。聖書を見ると、その他にも夢を見る物語がある。例えば、クリスマスの出来事の中で、夫ヨセフがマリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに離縁しようと考えていると、天使が夢に現われて「ダビデの子ヨセフよ、恐れずマリアを妻として迎えないさい」とのお告げを受けるとい夢を見る。また同じく、三人の博士が幼子イエスにお会いした後、夢で「ヘロデ王のところへ帰るな」と告げられたので別の道を通って行った、というような箇所もある。いずれも予知として神が夢を通して、導いたと言うことである。

ヨセフもそういう夢を見る者でした。ただヨセフは、相手の夢をも解き明かすという賜物があつた。その賜物をどう生かすかという事が如何に大事なことであるのかという事もうかがい知る物語でもある(37章と41章の比較において)。

「夢」繋がりて触れたい。ここに出てくる「夢を見る」という言葉は、ヘブライ語ではいくつかの使われ方がある。夢と同じ意味で「幻を見る」と言うのがあり、もう一つは「健康である・強い健康を回復する」という使われ方がある。健康とは、私たちが当然に望むことで願うこと。「夢を見る」とは、ただ単に、眠りの中で見るものとしてだけではなく、希望として「夢を掲げる」「夢を実現させる」という事としてもある。

「夢を実現させる」と言えば、「私には夢がある」と言って演説した、マーティン・ルーサー・キング牧師を思い出す。黒人に対する差別を無くす為に、全ての人々に平等に権利を与えるべきであると公民権運動を進めた。1963年に首都ワシントンで集会がもたれ25万人が集まった。そこでキング牧師は「私には夢がある。いつの日にか、ジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫とかつての奴隷主の子孫が、ともに兄弟愛のテーブルにつくことができるだろう・・・と」、キング牧師は夢を見た。翌年の1964年に、その運動の影響を受け、「公民権法」が成立する。キング牧師のその夢が実現へと近づいたことを証しするものであつた・・・。ただ、まだ十分に人種差別が無くなったとは言い切れない。

しかし夢を見続けることの大切さを教えられた出来事である。私たちがまた、夢を掲げて、信仰をもって歩むものでありたいと願う。(神谷)